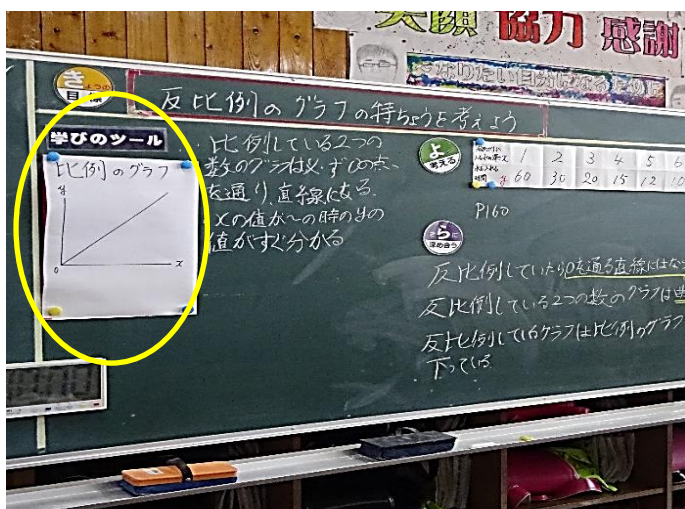


### 第3章

### 【「なぜ」「おそらく」が生まれる導入の工夫】実践例

「比例」から「反比例」の学習に入る導入の時間に、「比例」のグラフを学びのツールとして示し、「反比例」のグラフの特徴の学習を進めている取組  
～南小国町立中原小学校（6年算数）～

児童が主体的に学びに向かうために、児童が疑問をもったり、発見したりすることができる教材・教具等の提供を行っている。



授業の導入において、児童が考えるヒントになるように、「学びのツール」として「比例のグラフ」を本時のめあてのそばに示しています。「反比例」の学習を進めるうえで、これまでの「比例」の学習を生かした「学びのツール」は、児童が一人学びをする際にも大変役立ちますし、学び合いの中でも比較したり、確かめたりする材料として生かされています。

既習事項を生かす手立てにより、児童の「おそらく」が生まれる導入となるよう工夫されています。

前時の振り返りや資料提示を通して、子供の問いからめあてに導く取組  
～南阿蘇村立中松小学校（5年社会）～

児童が発する「なぜ」「おそらく」というつぶやきから、学習を方向付けながら問い（学習課題、学習問題）としてまとめている。



「前の時間に、食生活が変化したことで輸入された食料品が増えたことが分かったよね。その時みんなから、『どこでどのように生産されているか分からない食料品は安全なのですか？』という質問が出ました。今日は、これを学習課題にします。」

資料を提示してこれまで学習したことを振り返り、既存の知識と新たな考えを総合して、問いへつなげています。このことにより、児童がめあてをつかみ、本時の活動を通して取り組むことが分るとともに、主体的な学びにつながります。

また、めあてをつかむことで何を学習しているのかを常に意識でき、児童自身によるまとめにもつながります。

児童が学習課題を自ら立てることで問いを自分ごととして捉えることができる導入となるよう工夫されています。

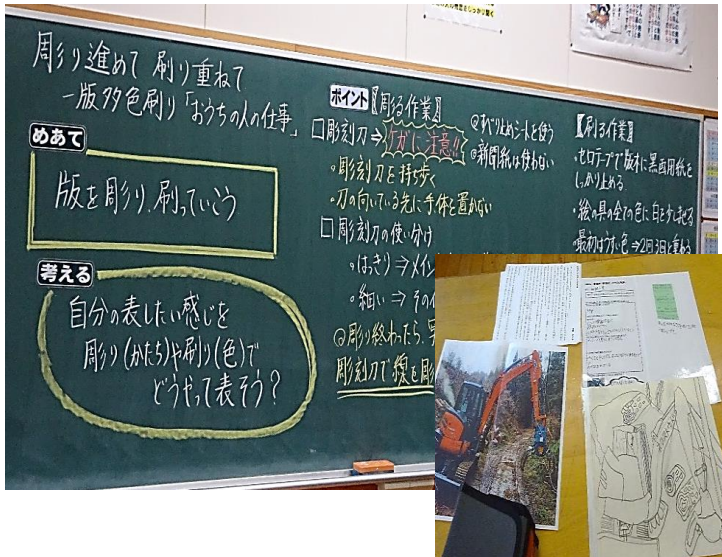
### 第3章

### 【「なぜ」「おそらく」が生まれる導入の工夫】実践例

「おうちの人の仕事」と題し、児童の単元への意欲付けを様々な手法で行い、版画を彫り進めて刷り重ねていく取組

～阿蘇市立波野小学校（5年図画工作）～

児童の生活体験や既習事項を基に、学習物や実物（写真）などの教材・教具から、教師も児童も「わくわく」する導入を行っている。



版画の単元で、テーマは「おうちの人の仕事」で、授業者は、波野中学校からの乗り入れ授業として、美術科の教諭が担当しています。

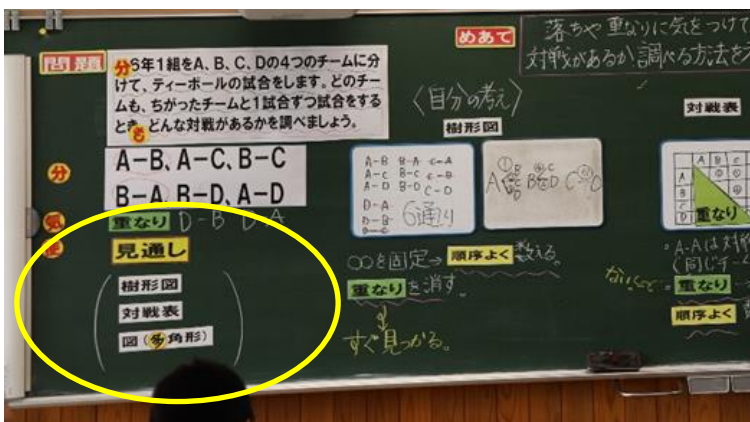
事前に、児童は家族の仕事聞き取ったり、仕事の様子を写真に撮ったり、そして自分の思いも綴っています。版画技術の学びとともに版画への思いが一体となる単元の導入場面です。

心をゆさぶる教材に出会うようにすることで、「やってみたい」という学ぶ意欲が高まる導入となるよう工夫されています。

体育の授業におけるティースボールの試合対戦の組み合わせ方について、図や表を用い、落ちや重なりがないように調べ考える取組

～玉名市玉名町小学校（6年算数）～

導入場面で他教科と関連する内容を取り扱い、児童の知的好奇心や興味・関心を高めることで、児童が問いをもつような導入を行っている。



体育の授業で行うティースボールの試合対戦の組み合わせについて調べるといって問題を設定し、児童の疑問や興味・関心を高めています。

調べ方として、前時までの既習内容である「樹形図・対戦表・図」を示し、見通しを持つことにつなげています。

また、落ちや重なりがないかについて着目することで、どのような組み合わせができるか、様々なパターンを試しながら、主体的に学習に取り組もうとする態度につなげています。